

令和元年（2019年）度 国際機関等への拠出金等に対する評価シート

総合評価

B⁺

■ 拠出金の概要

1 拠出金名	Gavi ワクチンアライアンス拠出金
2 拠出先国際機関名	Gavi ワクチンアライアンス
3 拠出形態	<input checked="" type="checkbox"/> ノンイヤマーク <input checked="" type="checkbox"/> イヤマーク
4 拠出規模 (令和元年度当初予算額)	17,679 千円 〔日本の拠出率 1.25% (2017年) 拠出額の順位 9位〕 本拠出率及び順位を試算した拠出額には、日本政府からの2016年度補正予算及び2017年度当初予算が含まれる。 <input type="checkbox"/> 本拠出金のみ <input type="checkbox"/> 他の拠出金も含む
5 国際機関等の概要	(1) 設立年・経緯, 加盟国等の数, 本部所在地, 目的・マニフェスト <ul style="list-style-type: none"> ● 設立年・経緯: 2009年にダボス(スイス)で開催された世界経済フォーラムにて発足。2009年にスイス政府より国際機関地位のスイスの財団として認定された。ドナー政府, ゲイツ財団, 世界保健機関(WHO), UNICEF, 製薬業界等による官民パートナーシップ。 ● 本部所在地: ジュネーブ(スイス)(ワシントンDC(米国))にも事務局を設置。その他地域・国事務所はなし。 ● 目的・マニフェスト: 低所得国の予防接種率を向上させることにより, 子どもたちの命と人々の健康を守ること。 (2) 主要な活動分野 <input type="checkbox"/> 安全保障 <input type="checkbox"/> 軍縮不拡散・科学 <input type="checkbox"/> 国際経済・資源エネルギー <input type="checkbox"/> 司法 <input type="checkbox"/> 教育・文化 <input type="checkbox"/> 開発・人道 <input checked="" type="checkbox"/> 保健 <input type="checkbox"/> 環境・気候変動 <input type="checkbox"/> 地域協力 <input type="checkbox"/> その他 ()
6 拠出の用途及び目的	2016~2020年の5年間で3億人に予防接種を行い, 500~600万人の命を救うというGaviの活動目的の下, 予防接種提供活動や保健システム強化支援等の活動経費として使用される。予防接種は, 疾病の予防の目的で使用されるものであり, 費用対効果の高い保健介入策である。そのため, Gaviへの拠出を通じ, 効果的・効率的に低所得国の人々の命や健康を守るため, Gaviへの拠出を行う。
7 担当課室	国際協力局 国際保健政策室

評価基準 1 国際機関等の活動の成果・影響力

1-1 当該機関の戦略目標, 基本的な目標・計画・重点分野, 関連する国際課題 (SDGsの関連ゴール・ターゲット, 国際基準・規範の形成等) 等
<ul style="list-style-type: none"> ● 2016-2020年戦略目標: <ol style="list-style-type: none"> ① 平等なワクチンの導入・普及と接種率の上昇の加速化 ② 保健システム強化にあたり, その一部としての予防接種の効率性と有効性の向上 ③ 各国の予防接種プログラムの持続可能性の改善 ④ ワクチン及び他の予防接種関連品の市場形成 ● 2016-2020年数値目標:

- 2020年までに更に3億人の子どもたちに予防接種を実施し、500-600万人の命を救う。
- 20か国が Gavi 支援から卒業。
- Gavi が支援する国全てで共同出資を履行。
- 健全なワクチン市場の確立。
- 800-1,000億ドルの経済利益を生み出す。

● **重点ワクチン:**

Gavi が支援対象とするワクチンは(2019年5月現在)、5価ワクチン(ジフテリア、破傷風、百日咳、B型肝炎、インフルエンザ菌b型)、黄熱病、肺炎球菌、ロタウイルス、A型髄膜炎、経口コレラ、MR(麻疹風疹)、麻疹(2回目接種)、日本脳炎、ポリオ不活化、子宮頸がん、腸チフス、エボラ(備蓄)

● **関連する国際課題:**

- Gavi の子ども達へ予防接種を安価に供給するための取組は、SDGsのうち、特に目標3(保健)の3.2(新生児、5歳未満死亡率の削減)に貢献。
- Gavi はワクチン配布を通じて、ワクチンのデリバリーシステム等の保健システムの強化を実施しており、この取組は3.8(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、ワクチンへのアクセス)に貢献。

1-2 1-1に基づく取組・活動(他の国際機関との連携等を含む。)

- **Gavi の取組・活動:** 現在一人あたりの GNI が 1,580ドル以下の 73か国を対象に、1-1の戦略目標に基づき以下の活動を実施。
 - ① (戦略目標) 平等なワクチンの導入・普及と接種率の上昇の加速化
→(活動) 13種類のワクチンの導入・普及を支援: 国の定期予防接種事業の中に新しいワクチンを導入したり、アクセス困難地域(都市部の貧困層や遠隔地方等)を含む全ての子どもへワクチンを届けたりする活動を含む。また、疾患のアウトブレイクに備えてワクチンの備蓄や予防接種キャンペーンも支援。
 - ② (戦略目標) 保健システム強化にあたり、その一部としての予防接種の効率性と有効性の向上
→(活動) 予防接種率を高めることを通じて保健システムを強化: 効果的・効率的なワクチンのデリバリーシステムはより多くの子ども達に持続的にワクチンを届ける上で重要であるため、サプライチェーンや医療保健の情報システム、需要創出、ジェンダーに配慮したアプローチの改善を支援。包括的な予防接種事業の整備やそれを通じた保健システムの強化を支援。保健システム強化を行う他機関(世界エイズ・結核・マラリア対策基金等)と重複回避をしながら連携。
 - ③ (戦略目標) 各国の予防接種プログラムの持続可能性の改善
→(活動) Gavi の支援終了後も各国が予防接種事業を継続できるよう、支援の初期段階から持続可能性に焦点を置いた支援を実施。また、各国政府・地方政府の予防接種事業へのコミットメントや、予防接種への予算・人材の適切な配分と管理を確立できるよう支援。
 - ④ (戦略目標) ワクチン及び他の予防接種関連品の市場形成
→(活動) ワクチンの需要を一括化することにより、低所得国にとって負担可能な価格までワクチン価格を下げる取組を実施。低所得国はより手頃な価格で安定したワクチンの供給を受けられる。
- **その他の取組・活動(Gavi のユニークなモデル)**
 - **官民パートナーシップでの効率的な運営:** Gavi は各国に支部を置かず小規模な職員体制(数百人)で、その事務局コストは3%未満だが、WHO や UNICEF とパートナーシップを組み、それぞれの強みを活かして効果的な支援を実施している非常に効率的な機関。
 - **革新的な資金調達:** ドナー国からの拠出に加え、革新的な方法で資金を調達。具体的には、ワクチン債(IFFI: ドナー国の長期的な資金拠出に係るコミットメントを担保に債券を発行し前倒して資金を調達)や、ワクチン事前買取制度(AMC: 開発中のワクチンに対し将来の収益に見合った価格を支払うことを約束する制度)等、長期的かつ計画的に官民の資金を動員するための革新的な資金調達メカニズム等の取組も実施。
 - **イノベーション:** 「INFUSE」というイノベーションのスタートアップを支援する枠組みを実施。ワクチンのデリバリーシステム改善に資するイノベーションや技術を公募し、選定された技術を持つ企業は、様々なイノベーションを持つ世界の企業とのコミュニティに加入できたり、Gavi の枠組みを活用し、イノベーションを展開できる枠組み。

1-3 1-2の進捗・実績及びそれによって得られた成果

- **1-1の数値目標(2016-2020)に対する進捗・実績(2016-2017年実績):**
 - [目標] 2020年までに更に3億人の子どもたちに予防接種を実施し、500-600万人の命を救う。
→[成果] 1億2,700万人に予防接種を実施し、250万人の命を救った。(なお、2000年の設立以来18年間で、7億人の子どもたちに予防接種を行い、1,000万人の命を救った。)
 - [目標] 20か国が Gavi 支援から卒業。
→[成果] 16か国が卒業(2016-2018年実績)。

<ul style="list-style-type: none"> 〔目標〕Gavi が支援する国全てで共同出資を履行。 →〔成果〕全ての国で履行中。 〔目標〕健全なワクチン市場の確立 →〔成果〕5価ワクチン、肺炎球菌ワクチン、ロタウイルスワクチンの接種に係る費用を 17%削減(2015 年に US\$20→2017 年に US\$16.63) 〔目標〕800-1,000 億ドルの経済利益を生み出す。 →〔成果〕500 億ドルの経済利益を生み出した。(なお、2000 年の設立以降、1,500 億ドルを超える経済効果を生み出した。) <ul style="list-style-type: none"> ● <u>その他の成果</u> <ul style="list-style-type: none"> Gavi の介入により、WHO が推奨する 11 種類の小児ワクチンの一人当たりの価格は、米国市場で 1,100ドルであるのに対し、Gavi 支援国では 28ドルまで下げること成功。 60 か国以上で保健システムの強化と予防接種サービスの強化に寄与。 2000 年以降、2018 年末までに、430 件以上のワクチン導入と予防接種キャンペーンを支援。 Gavi が支援する 73 か国において、予防接種に1ドル投資することで、結果として 18ドル節約することとなる(医療費・逸失賃金・生産力の損失を勘案)。さらに、寿命が伸びる、健康に暮らせる等の広い意味の効果まで勘案すると、1ドルあたりの節約額は 48ドルにまで増加。 2017 年末までに 55 か国が Gavi の支援で不活化ポリオワクチン(IPV)を導入、7,500 万人の子どもたちにポリオの予防接種を実施。
1-4 (イヤマーク拠出のみ)イヤマーク拠出による取組・活動の進捗・実績及び得られた成果
(2016 年度補正予算事業)Gavi による黄熱感染拡大防止支援
<ul style="list-style-type: none"> ● アフリカを中心に広がる黄熱がアジアにも拡がり、世界への感染拡大が懸念される中、黄熱の効果的な予防のため、Gavi ワクチンアライアンスを通じて感染拡大地域での黄熱ワクチン接種活動を支援する。具体的には黄熱ワクチンの購入及びワクチンの効果的な運搬・保管のためのコールドチェーン機材の調達により、予防接種を実施し、疾病予防を図る。また、予防接種が効率的に実施されるための人材育成、保健システム強化を図る。 ● 日本のイヤマーク拠出は、コンゴ民主共和国、ナイジェリア、ガーナにおける支援に使用。 ● 主な成果は、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期予防接種事業を通して 2,800 万人以上を黄熱病から予防することに寄与 ・ 予防接種キャンペーンを通して 700 万人を黄熱病から予防することに寄与

評価基準2 日本の外交政策上の有用性・重要性

2-1 関連する日本の重要政策、外交戦略・重点分野等
① 関連する日本の重要政策(施政方針演説、外交演説、各種基本計画等のうち主なもの)
<ul style="list-style-type: none"> ● 「平和と健康のための基本方針」(平成 27 年9月 11 日 健康・医療戦略推進本部決定) <ul style="list-style-type: none"> ・ (1) 公衆衛生危機・災害等の外的要因に対しても強靱な健康安全保障体制を構築する <ul style="list-style-type: none"> 2 国際機関等との協力強化を通じた感染症対策 ○ <u>Gavi ワクチンアライアンスによる予防接種活動等の強化</u> ・ (2) 生涯を通じた基礎的保健サービスの継ぎ目のない利用を確立し、UHC を達成する <ul style="list-style-type: none"> 1 UHC の実現に向けた途上国の保健システム強化支援 ○グローバルファンド、<u>Gavi ワクチンアライアンス等による UHC の推進に資する取組への貢献</u>
② 日本外交の関連重点分野
地球規模課題への対応(国際保健)
地球規模課題への対応(持続可能な開発目標(SDGs))
2-2 日本の外交政策を遂行する上での当該拠出の有用性・重要性及び日本の重要外交課題の遂行への貢献
Gavi への拠出を通じて、国際保健における我が国の SDGs への貢献を示すことが可能。
<ul style="list-style-type: none"> ● 世界の子どもたちの定期予防接種率は 85%に到達している。Gavi の活動を通じ、更に多くの人々に予防接種を広げることで、日本が重視する誰も取り残さないユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の強固な土台となる。 ● Gavi の予防接種活動は、子ども達を疾患や死から予防し、乳幼児死亡率の削減に寄与するものである。

Gavi への拠出を通じて、人間の安全保障への具体化に資する。	
<ul style="list-style-type: none"> Gavi が提供するワクチンは、主に感染症の予防を行うものである。感染症は人の移動等により、容易に他国へも拡大し得るものであるため、Gavi への拠出を通じて感染症拡大の予防を行うことで、日本が重視する公衆衛生危機への対応力の向上、人間の安全保障に資する。 	
2016 年の伊勢志摩サミットの際には、2020 年までの新たな拠出(7,600 万ドル)をコミット。	
<ul style="list-style-type: none"> コミットをしかるべく達成し、国際保健分野でリーダーシップを発揮している我が国の国際的な信頼・存在感の確保を可能とする。 ワクチン価格を低下させる取組や、予防接種の導入・普及の取組は、当該分野で専門的知識及び革新的なメカニズムを持ち、費用対効果の高い予防接種ワクチンを安価に供給する取組を行っている Gavi と協力しなければ為し得ず、二国間援助のみでは効果的な実施が困難。 予防接種支援は効果的な展開が鍵であり、二国間支援のみではこれを効果的に実施することは困難。 2018 年度末には、2019 年の TICAD7 の機会に、Gavi の増資準備会合を日本がホストすることを決定。こうした貢献を通して日本の存在感を示している。 	
2-3 当該機関の意思決定プロセスにおける日本の意向を反映できる地位の確保	
<ul style="list-style-type: none"> 当該機関の意思決定は理事会で行われる。日本は右理事会において、米・豪・韓と議席(理事区)を共有しており、理事会の場で右理事区を通じ(理事区内で事前に意見を調整し)、日本の意向を Gavi の活動に反映させるべく努めている。 	
2-4 当該機関との間での要人往来、政策対話等	
<ul style="list-style-type: none"> 2018 年7月、Gavi のオコンジヨ 理事長が中根外務副大臣を表敬。 2018 年11月、Gavi のバークレー事務局長と外務省幹部との間で政策対話を実施。 2019 年2月、バークレー事務局長が河野外務大臣及び鈴木外務大臣政務官を表敬、外務省幹部との間で政策対話を実施。 <p>こうした外務省政務及び幹部と Gavi との懇談の場において、日本の保健政策と Gavi の目標・活動が調和していることを確認するとともに、SDGs や UHC の達成に向けて連携できるような働きかけを行っている。</p>	
2-5 日本企業、日本の NGO・NPO、地方自治体、大学等との関わり	
<ul style="list-style-type: none"> NEC が幼児指紋認証技術の面で、Shimprints 社(英)及び Gavi との連携事業を開始。これは、日本企業で初めての Gavi との連携事業の例。 	

評価基準3 組織・財政マネジメント

3-1 会計年度	1月から12月		
3-2 機関全体の財政状況			
報告年月	2018年11月受領(2017年分)	通貨	米ドル
予算額	7,787,876,000 ※1,672,399,000(当該年度収入(除、前年度繰越し)+6,115,477,000(前年度からの繰越額))	決算額	2,191,889,000 ※1,944,006,000(当該年度支出)+247,883,000(temporarily restricted net assets の差損)
予算額・決算額の差	5,595,987,000	予算額に占めるその差の割合	72%
65%以上の場合、その理由	<p>Gavi では、5か年戦略にて計画が策定される。Gavi に対し、各国は複数年の単位で拠出を行っており、予算額・決算額の差(次年度への繰越額)には、①来年以降のプロジェクトに貼付け済みの金額や、②実際にはまだキャッシュとして受け取っていない拠出金(プレッジ額)が含まれている。</p> <p>なお、Gavi の第2次増資期間(2016-2020)の収支予測は、収入は95億米ドルが見積もられており、支出は92億米ドルが見積もられている。</p>		
3-3 本拠出の会計報告(イヤマーク拠出分のみ)			
報告年月	2019年2月受領(2016年度補正分)	通貨	米ドル

報告がない場合、その理由	—		
予算額	19,000,000	決算額	19,000,000
予算額・決算額の差	0	予算額に占めるその差の割合	—
65%以上の場合、その理由	—		
3-4 監査			
(1)外部監査			
対象年度	2017年1月～2017年12月	報告年月	2018年8月公表
実施主体	KMPG		
財政状況に係る報告が正確かつ適正に作成されていることの確認 (「無」の場合にはその概要及び対応ぶり)	有		
組織・財政マネジメントに係る指摘(監査報告に含まれている場合) (「有」の場合、3-5に指摘内容を記入)	無		
(2)内部監査			
対象年度	2017年6月～2018年5月	報告年月	2018年6月公表
実施主体	監査・財務委員会		
対象事項	組織のリスクマネジメントや管理, ガバナンスプロセス		
3-5 組織・財政マネジメント(人事・予算・調達等)に係る問題の概要・対応ぶり, 更なる改善への取組・成果			
<ul style="list-style-type: none"> ・2018年7月, ある1名の職員による経費の不適切な使用が確認されたものの, Gaviによる迅速かつ適切な対応により損失額はなく, 更に再発防止策や財務システム改革を徹底。 ・2018年10月に英国政府(Gaviのドナーの一つ)が実施したGaviのAnnual Reviewにおいて, Gaviは評価A (Outputs met expectation)を得ている。 			

評価基準4 日本人職員・ポストの状況等

4-1 日本人職員数 (原則, 各年12月末時点, 専門職以上。)								
全職員数	日本人職員数		日本人職員 の比率(%)	過去3年の日本人職員数				増減数
	2018	2018 内, 幹部		2017	2016	2015	平均値	
276	2	0	0.7	1	2	1	1.3	0.7
<input type="checkbox"/>	専門職から幹部職, 幹部職内の昇進有り	名	備考	—				
4-2 当該機関の長等の重要ポストを務めている日本人職員の有無								
—								
4-3 日本人職員の採用・昇進に係る具体的な協力の実績								
<p>Gavi及び国立国際医療研究センター(NCGM)グローバルヘルス人材戦略センターにて, 国際保健分野の人材と国際機関とのマッチングを促進する取組を継続。</p> <p>2018年, 複数箇所の大学にてGaviのリクルートセミナー実施。また, GaviやNCGMが, 略歴の記載方法やインタビューの実演等を含む実践的なキャリアセミナー実施。</p>								
4-4 その他特記事項								
<p>国連機関と異なりJPO派遣ができないことは, 邦人職員強化の面で不利である状況を踏まえ, Gavi側との協議の結果, 2018年12月にJPO派遣に係る協力覚書の署名に至った。日本政府より邦人職員増強に関し働きかけを</p>								

続け、2018年7月に邦人職員1名増加。同職員は日本企業との官民連携等を担当しており、日本語で企業とやりとり可能であることも功を奏し連携が加速し、初の日本企業連携案件(2-5 参照)に結びついた実績あり。